

## 1 「日本読書学会」とは

「読み(reading)」に関する研究を通して、研究者、教育の実践者などの活動と学術交流を支える組織です。

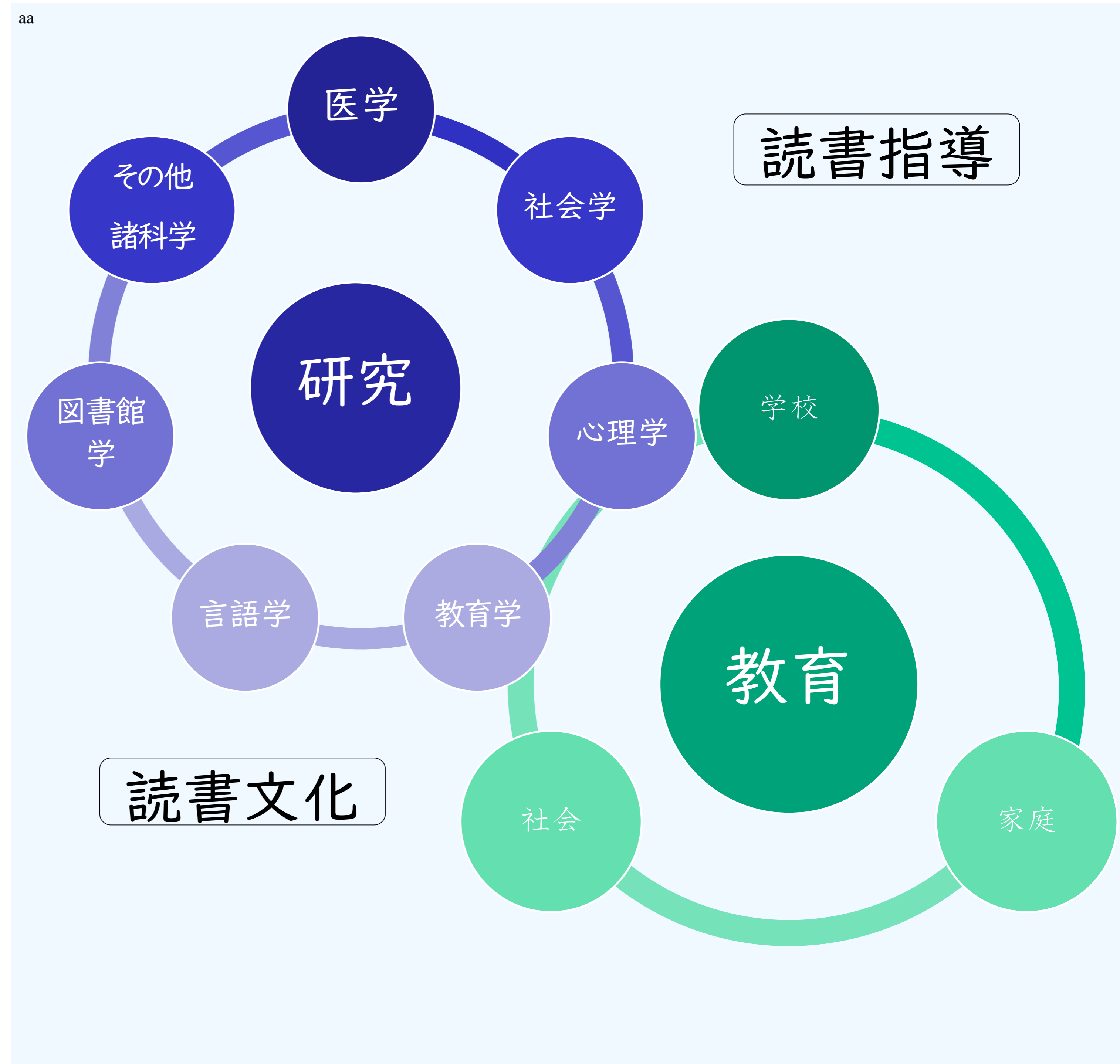
「読み」に関わるさまざまな学問と学校・家庭・社会における教育・学習に関わる人々が提携協力して総合的に研究を進めることで、読書文化の発達ならびに読書指導の進歩に寄与することを目指しています。

また、本学会は、日本学術会議協力学術研究団体であり、国際リテラシー学会(International Literacy Association)(ILA, 旧名:国際読書学会)の加盟団体です。

## 2 対象となる研究や実践

狭義の読書活動のみならず、読む・書くといった活動全般、言語教育研究、リテラシー研究、図書館・書店をはじめとした読むことを支える環境に関する研究・実践など多くの領域を対象としています。

- ・ 言語教育(国語教育、日本語教育、英語教育等)
- ・ 言語心理学、文章心理学
- ・ 認知神経科学、認知科学
- ・ 図書館情報学
- ・ 言語に関する教育工学
- ・ 教育におけるICT活用
- ・ 視覚障害者の読みに関する研究
- ・ 書籍の出版・流通に関する研究…など



## 3 機関誌『読書科学』

日本読書学会では、機関誌『読書科学』を年4回刊行しています。学会に掲載された記事は、オンライン上に公開されており、無料で読むことができます。

岡村幸代ほか(2020)  
「地域子育て支援における母親支援を志向した絵本の読み聞かせの可能性と課題」



望月正哉ほか(2021)  
「読者もつ物語の認知的ジャンルの測定」



吉永安里(2021)  
「『おおきなかぶ』における幼小の指導の連続性」



近藤 万里子ほか(2022)  
「自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)児の言語発達の特異性」



渡邊 幸佑(2023)  
「「事実」と「意見」の再定義」



## 4 研究大会 (年1回)

日本読書学会では、毎年8~9月頃に、東京にて、研究大会を開催しています。第一著者が会員であれば、どなたでもご発表いただくことができます。

## 5 海外との交流

国際リテラシー学会(ILA)の加盟団体として、学会員による海外学会への参加を奨励する制度「国際学会発表支援制度」を設けるほか、ILAや関連団体との交流を行っています。

国際リテラシー学会が2018年に発表した  
「子供の読む権利」10箇条

日本読書学会ホームページからダウンロードできます！



英語版



日本語版

## 6 読書調査プロジェクト

1947年より実施されていた毎日新聞による「読書世論調査」が2020年度をもって終了しました。日本の成人の読書活動の動向についての記録が途絶えることとなります。こうした状況を受けて、本学会では成人を対象とする読書活動に関する調査プロジェクトを発足させました。

## 7 研究推進事業

2023年度より、会員間の交流や研究の活性化につながるような研究行事の定例での企画実施や、図書館総合展へのポスター発表参加をはじめとした対外的な研究成果の発信を進めています。

この一環として、2024年2~3月頃に、読書に関する研究・教育に関するセミナー・講座を開催予定です。